



今月の話題

- 八木先生のIISEEセミナー
- 福島県沖の地震情報の公開について
- 2021-22年度研修生募集
- 応募のための英語力証明
- 研究事業の実施に関する会議
- 研修修了生の博士号取得

研修データベース

IISEENET(地震防災技術情報ネット)

IISEE-UNESCO レクチャーノート

Eラーニング

シノプシス・データベース(修士論文概要)

Bulletin データベース

八木先生のIISEEセミナー

国際地震工学センター 上席研究員 芝崎 文一郎

2月3日(水)に八木教授による遠隔IISEEセミナーを開催しました。このセミナーでは八木先生が震源過程と断層の幾何学状に関する新しい研究成果をご紹介します。

日付/時間:2月3日(水)15:00-16:00(日本時間)

演題:High-Degree-of-Freedom Finite-Fault Inversion Method (Zoom)

講師:八木 勇治 教授(筑波大学)

八木先生の講演の後には、芝崎上席がグローバル地震観測研修、原上席が地震学コースについて簡単に報告し、

その後にSpatial Chatを用いた話し合いを持ちました。

リアルタイムでのセミナー参加者 83名程度(帰国研修員:66名、現研修員8名)で、海外からは下記の国からの参加がありました。

Costa Rica, Turkey, Morocco, South Africa, Thailand, Indonesia, Ghana, Kyrgyzstan, Turkey, Philippines, Egypt, Mongol, Georgia, Malaysia, Algeria, Myanmar, Azerbaijan, China, Nepal, Mexico, Iran, India, Timor-Leste, Comore, Sri Lanka, Zimbabwe, Solomon

深夜にも関わらず、中米からの帰国研修員も参加もあり、活発に議論が行われました。

セミナーはリアルタイムで参加できなかった方に対してはオンデマンドで配信しました。

大変有益で、今後も遠隔セミナーを開催してほしいという意見がありました。

福島県沖の地震情報の公開について

国際地震工学センター センター長 小豆畑 達哉

2021年2月13日23時08分頃に福島県沖の地震が発生しました。この地震に関する情報をホームページに公開しました。

福島県沖の地震に関する情報はこちらからご覧いただけます。

地震データベース

2011年3月11日東北地方
太平洋沖地震

地震情報

宇津カタログ(世界の地震被害)

地震カタログ(世界の大地震の震源メカニズム、余震分布等)



論文募集

IISEE Bulletin は、現在地震学、地震工学、津波に関する論文を募集しております。開発途上国に関するものを対象としていますが、それに限らず募集しています。

送って頂いた未発表の論文は、編集委員会と専門家による査読を行います。投稿料は無料です。

是非チャレンジして下さい

連絡先

IISEE ニュースレターは、IISEE と卒業生の架け橋を目指しています。

ニュースレターへの報告や記事をお待ちしております。皆様の自国でのご活躍をお知らせ下さい。

2021-22 年度研修生募集

国際地震工学センター 管理室長 山田 高広

JICA は、2021-22 年度の通年コース(地震学コース、地震工学コース、津波防災コース)の募集情報を発信しました。選ばれた国はインドネシア、マレーシア、フィリピン、東ティモール、ブータン、バングラデシュ、フィジー、トンガ、エルサルバドル、コロンビア、ペルー、アルジェリア、およびガーナです。この情報を、海外留学を希望する同僚や部下に伝えていただければ幸いです。申請期限は 2021 年 4 月 9 日ですが、これは JICA の現地事務所から東京の JICA 本部に申請書を送付する最終日です。そのため締め切りはさらに早く設定されます。詳細については JICA 現地事務所にお尋ねください。

応募のための英語力証明

国際地震工学センター 管理室長 山田 高広

2021-22 年度の通年コース(地震学コース、地震工学コース、津波防災コース)では、IISEE、BRI、GRIPS の協力の下、修士号を取得することが出来ます。このコースは、ディスカッションに積極的に参加し、アクションプランや研究報告書を作成することが含まれており、会話と構成力の両方において高い英語力を必要とします。したがって、応募者は、話す、及び書く英語において堪能であり、TOEFL iBT では 79、IELTS では 6.0 を最低でも保有していなければなりません。GRIPS / BRI 修士プログラムの申請者は、上記英語の証明書、あなたが卒業した大学にて講義が英語で行われていたことの公式証明書、または米国、英国、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド、アイルランドにある認定機関の学位を提出することが必須です。

研究事業の実施に関する会議

国際地震工学センター 管理室長 山田 高広

国際地震工学センター(IISEE)は、研修事業をより充実したものとするため、毎年、2月頃に、外部の有識者から構成される諮問委員会を開催しています。今年も、2月1日に、本会議をリモートで開催しました。今回は、コロナ禍の中の遠隔講義の実施方法が重要な議題として取り上げられました。IISEE では、委員会からの意見を踏まえ、コロナ禍の危機的状況にあっても、これまでと変わりなく、研修生に地震・津波減災に関する知見と技術を提供できるよう努めてまいります。

研修修了生の博士号取得

ネパール国立地震観測・調査センター Mukunda Bhattarai 博士

私は、2020 年 12 月 11 日に東京大学から博士号を取得しました。新型コロナウイルスの世界的な流行により、取得時期は数か月遅れてしまいましたが、こうし

また、皆様の同僚やお友達もこのメーリングリストに登録するようにお誘い下さい。

iiseenews@kenken.go.jp
<http://iisee.kenken.go.jp>

ニュースレターの 配信先変更

IISEE ニュースレターの配信先の変更は、
iiseenews@kenken.go.jp
へご連絡ください。

バックナンバーは 下記をご覧ください。

<http://iisee.kenken.go.jp/nldb/>

て皆さんにご報告できるのをとても喜ばしく思います。博士論文のタイトルは、「サイト特性についての研究と、その応用による地震被害の把握」です。この論文では、ネパールの首都カトマンズ中心部の複数の観測サイトで、広帯域地震計により常時微動を長期間計測することで、各地点でのせん断波速度構造を明らかにし、さらに、それらの速度構造を用いて2015年ネパール・ゴルカ地震の地震動をシミュレーションすることで建築物の被害を分析しています。

私は2004-2005年にかけて地震学コースの研修を受けました。この研修が修士コースと連携する以前の、最後の年でした。また、2008年には、常時微動に関するセミナーを受講しました。これは同年つくば市で開催された国際アジア地震学会総会(ASC 2008)に合わせて開講されたものです。さらに、2013-2014年には、地震学コースに参加し、建研とGRIPSが合同開設している修士号(災害管理)を取得しました。

このような貴重な学びの機会と、サポートをご提供くださった建築研究所および国際地震工学センター、GRIPS、そしてJICAのみなさんへ心からの感謝をお伝えします。そして、これから機会があれば、再び研修に参加したいとも思っています。私は、現在、ネパール政府系研究機関の鉱山地質局(DMG)の国立地震観測・調査センター(NEMRC: National Earthquake Monitoring and Research Center)で地震学者として勤務しています。



国立地震観測・調査センター
Mukunda Bhattarai 博士